

シテントウ、ヒメカメノコテントウは普通にいた。

8 Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

- (1) *Gonocephalum coriaceum* Motschulsky コスナゴミムシダマシ

1948. 6. 25

庭の砂地に多数棲んでいた。

- (2) *Uloma marseuli* Nakane エグリゴミムシダマシ

1943. 7. 21

9 Alleculidae クチキムシ科

- (1) *Allecula fuliginosa* Maklin オオクチキムシ

1949. 6. 25

- (2) *Borboresthes acicularis* Marseul クリイロクチキムシ

1947. 7. 21

10 Oedemeridae カミキリモドキ科

- (1) *Xanthochroa hilleri* Harold キイロカミキリモドキ

1946. 6. 16

アオカミキリモドキも多くいた。

ヒメウラナミジャノメの遅い採集記録

森 和 夫

1990年は暑い夏であったが、晩秋以降も近年になく暖かい日が続いたため、町中では、落葉するはずの街路樹等も、いつまでも背々としているものがあつた。また、新聞紙上でも、植物の生育や昆虫の活動等、いろいろと話題になっていた。筆者は、後記のように遅い時期に、ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* BUTLER を採集したので報告する。

本種を採集した日の前後も、おだやかな日が続いていたため、自宅の庭でもウラギンシジミが飛び回り、ムラサキシジミが葉上で日光浴をしていた。午後2時頃、目前に黒い蝶が飛び出してきた。この季節だけに、一瞬、何か分らなかったが、足元のコンクリート上に翅を広げて止まったため、急い

で網を持ち出し、採集した。新鮮な♀であった。

本種は、原色日本蝶類図鑑（川副昭人・若林守男共著、1976年・保育社刊）P.270によれば、「暖地では通常年3回発生で、4月中旬～9月下旬に姿がみられる。10月に4化の現れることもある。」と記載されている。

また、原色日本蝶類生態図鑑Ⅳ（福田晴夫他共著、1984年・保育社刊）P.67～P.68では、各地の発生状況が記載されており、遅い採集例としては、長野県飯田市で11月9日、長崎県では11月7日となっている。従って、今回の採集は、11月25日であり、これらよりも遅い採集日であった。なお、本種の夏型は春型よりも、一回り小型であるが、採集した個体は夏型タイプの小型（開長34mm）であった。

〈採集データ〉

川西市見野字山形、25—XI—1990。 1♀ 筆者採集。

ニシキキンカメムシ神戸市内に産す？

大倉正文

昨年（1990年）12月の初め、神戸生物クラブ顧問の清水美重子氏から「神戸の灘区に住んでおられる方の家に入ってきたものだそうです。タマムシのような美しい虫ですが、何という名前でしょうか」というお手紙とともに1頭の昆虫が送られて来た。

早速包をあけてみると、甲虫の成虫とばかり思っていたのに幼虫で、それも私には門外のカメムシの幼虫であった。しかし、いかに門外漢でもこのように大きくて美しい幼虫はキンカメムシ類に違いないというくらいの見当はつく。

ところで、兵庫県下に分布するキンカメムシ類はオオキンカメムシ・アカスジキンカメムシ、それに高橋寿郎氏が本誌第18巻にくわしく書かれているニシキキンカメムシの3種類である。この中、オオキンカメムシは四国等の暖かい所で越冬する性質があり、渡りをする事で知られているので、幼虫が兵庫県に棲息するのは疑問がある。ニシキキンカメムシは高橋氏の報文を読むと、この近くでは1960年代に西宮市の尼子谷で見付かっているにすぎない。とすると、残るはアカスジキンカメムシであるので、アカスジキンカメムシの幼虫？ではなかろうかと思う旨のお返事を差上げておいた。